

同時進行型



島根県邑南町立石見東小学校  
中川 貴如

実践テーマ

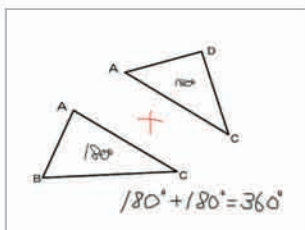
児童が電子黒板の図形に書き込みをしながら説明する。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

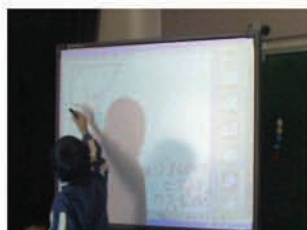
- 〈導入〉 既習の図形を電子黒板に提示し、内角の求め方を振り返る。(本時の学習の素地作り)
- 〈展開〉 五角形、凹型五角形の求め方を個々に考えさせ、電子黒板上で発表させる。(考え方の共有)
- 〈展開〉 三角形、四角形、五角形の内角の求め方を提示し、次時の見通しを持たせる。(次時への意欲)

本時の展開

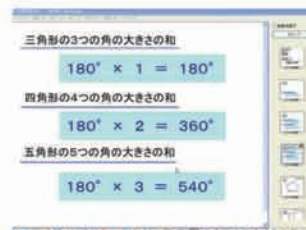
学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	・既習の図形(四角形、長方形、ひし形、平行四辺形)を提示し、内角の求め方を発表させ、振り返る(PC教材①)。	●自作PC教材 使用ソフトウェア： スマートノートブック(日本スマートテクノロジーズ(株))
展開	・五角形を提示し内角の和の求め方を考えさせる。 ・内角の和の求め方を児童が線を書き入れながら発表する(PC教材②)。 ・凹型五角形を提示し内角の和の求め方を考えさせる。 ・凹型五角形の内角の和の求め方を児童が線を書き入れながら発表する(PC教材③)。	●自作PC教材・図形(書き込み説明用)
まとめ	・三角形、四角形、五角形の内角の公式を発表する(PC教材④)。 ・これらを用いて公式を作ることを告げて、次時への意欲を持たせる。	●自作PC教材・図形(復習用)



電子黒板上で提示し、児童が線を引いたり動かししたりしながら、既習事項の書き込みをし、振り返りを行う



図形を電子黒板に提示し、そこに線や数字を書き入れ、求め方を書き込み説明



3つの式を並べて、公式への手がかりを持たせる

児童の反応・効果

- ・次々と図形を提示したことで、児童の学習時間を確保でき、興味関心も高まった。
- ・電子黒板に書き込みながらの説明を取り入れたことで発表意欲が高まり、相手を意識した説明をする姿が見られた。

活用のポイント

- ・問題や考え方の共有場面では、電子黒板を利用すると効果的である。ただし、個々の児童が思考する場面ではノートやプリントなどの活用が必要。
- ・本時に必要な既習事項や新しい学びは黒板に、書き込みなどが必要なものは電子黒板等、両方を生かして授業をしていく必要がある。